

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしく、いきいき、たのしく、ゆったりと暮らします。おひとりおひとりの心の声に寄り添っていきます。」と職員全員でつくった理念がある。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時には毎日唱和している。声を出して確認することにより、日々のケアの取り組みへの意識が向上している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	開設5周年の記念の集いを家族や地域の人々と共に行った時をはじめ、行事実施時には、理念を理解してもらえる様、具体的に話すことに努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所へ利用者と共に散歩に出かけたり、近所の方から、取れたての野菜を届けてもらったり、気軽に会話ができる関係づくりに努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアによる運営の地域デイサービスに参加される利用者がいる。また公民館の行事にも希望者は参加している。		介護度が低い利用者の参加が多く、介護度が高い利用者は参加しにくい現状である為、均一的な参加への課題がある。今後は車椅子の方も参加できる活動には、意欲的に行き事が出来る様に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項説明書の内容については充分説明し、質問事項には理解し易く説明するように努め、納得された上での契約となっている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>時々利用者が答え易いような内容で、意見や不満等が聞き取り出来る様にしている。外出希望の意見がほとんどである。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に生活の様子を報告し、金銭については、現金と収支明細表の確認を毎月行っている。またひかりだより、荘だよりのひかりコーナーも活用した通信紙を発行し、異動についても口頭で報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議で意見を出し易い様にし、ご意見箱も設置している。また市職員へも苦情受付がないかどうか時々問い合わせしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>自己申告書の中に、意見や提案が出来るような欄もあり、自由に記入出来る様にしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>面会時間は決めておらず、家族の都合で自由に出来る様にしており、利用者の体調急変時は、管理者が、指示と勤務調整を行うなどし、連絡網も整備している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の都合により離職があった時は、利用者の担当を決める時に、個別的な関わりを大切にしたい支援が出来る様に、無理のない決め方をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>現状は女性職員のみであるが、男性の応募を不可としているのではない。年齢についても制限はしていない。また能力の發揮や自己実現は、年2回の自己申告で記述し、面談の機会もある。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育の重要性については、折に触れ話す様に努めている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には、全員が行く機会を得ることが出来る様に、勤務年数や、資格に合った研修への参加を促進している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同一市内のグループホーム部会主催で、定例会や研修会、事例検討会等、毎月行っており、情報交換にも努めている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>1回/年のリフレッシュ休暇取得制や、法人全体の職員旅行も行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	自己申告書で、努力や実績もアピールが出来ると共に、人事考課も、正しく考課出来る様にしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	コミュニケーション対応し、その人に合った声かけのやり方で、思いを把握する様にし、難聴者には筆談で行う等し、信頼関係づくりに努めている。		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	面談を充分に行い、利用開始後は、少しでも満足のいくサービスを受けることが出来る様に、意見を述べやすい関係づくりを目指している。		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	現在デイサービスや、ホームヘルプサービス利用後の入居相談の方が主であり、グループホームの利用を家族が決断されている場合が多い。		現在は小規模多機能サービスが市内にはないが、サービス事業所開設時は必要な支援を柔軟に対応出来る様に見極めて情報提供していきたい。
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入居申し込み時は、必ず本人が見学に来られ、どの様に感じられたのかを家族より聞いて、納得された後の契約となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	人生観や職業観などを、聞くことが出来る様な会話に努め、知り得た情報は職員間で共有し、ひとりの人として、相互関係を築ける様努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、生活暦の情報収集を行い、その人らしい生活ができる様に支援することを努め、昔暮らしていた場所や、行ってみたい場所へも、個別に出掛ける支援をしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、居室で談話出来る様にし、お正月やお盆帰省、外出などの機会もつくり、誕生会への招待なども行っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出や、近所の方との交流の場へ行く支援ができており、安心して生活を送ることが出来ている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席や、テーブルに花を置くことで、他利用者の視線をカバーでき、ゆっくりとお茶を飲みながら、会話ができる環境づくりを行っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後、入院となられた時は、面会に行くなど、利用者、家族との関係作りを大切にしている。		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活を、大切にするために、1対1でのコミュニケーションの機会を多くし、本人の思いを、ケアプランにも取り入れることを重視している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族より情報収集し、入居時も、ケアプランへの意向確認や家族との面会時は、今までの生活歴なども含めた会話をしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で、情報交換を申し送り時には細かく行い、総合的な把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式によりアセスメントし、本人、家族の生活への意向も取り入れ、介護計画については、具体的な声かけの仕方等を示した計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは1回/2ヶ月行い、体調上に大きな変化があった時は、その時点で、見直した介護計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録はできごとの時間、項目も記入し、変化や様子がわかりやすい様に、また1ヶ月の生活の記録も活用し、ケアを行うと共に、介護計画にも生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの中で、多機能性の捉え方が難しいが、ボランティアの地域デイサービスや、地域の方とのクラブ活動等、柔軟な支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の小学校や、保育園児との交流、1回/月の読み聞かせ、アロママッサージのボランティア、2回/月の歌クラブ、お花クラブ、習字クラブへも参加。また、民生委員の協力で、地域デイサービスへも参加している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では、グループホームで出来る限り最後まで生活したいと願ってある方のみであり、他のサービスの必要性を、家族が検討されていない状況である。		医療的ニーズが高くなった利用者に医療からの訪問看護を利用される様支援したことがあり、今後も必要性に応じた支援も検討していきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの社会福祉士より、権利擁護や、後見人制度のことについて、研修の形で指導を受ける等している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ひかりの協力医もいるが、利用者の体調によっては、かかりつけ医と家族に相談し、専門医を受診。適切な治療を受けられるように支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医がいる協力医療機関があり、必要があれば家族と相談し、利用者の診察や治療を受けられるように支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職場に看護師がおり、両者の日常の体調維持管理をし、異常時は、かかりつけ医に連絡をし、対応している。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は情報の共有に努め退院時は病院と情報交換、家族の意向も尊重して、速やかに受け入れ態勢を整え、安心と安全な生活が出来る様支援している。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>最期はどこで、どのように迎えたいのかを、把握しておくことにより、状態悪化時は家族と面談し、かかりつけ医と連携し、同じ方向性で支援出来る様に努めている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>利用者の苦痛を少なくし、安心して暮らすことが出来る様に、かかりつけ医や家族と連携し、必要に応じて福祉用具の活用、訪問看護も状況によっては検討し、グループホームでできないことを見極めチームケアをしている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>開設以来、住み替え発生していないが、今後発生時は、環境の変化が及ぼす影響を最小限になる様に努めて支援出来る様にする必要性を、職員が共有している。</p>		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>いつも尊重した態度と言葉かけをし、記録や写真など個人情報の持ち出しは、禁止している。事例発表等で使用時は、家族の承諾を得、個人の特定が出来ないようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ゆっくり、はっきり、わかり易い言葉をかけ、難聴の方には耳元で声かけや筆談にて対応。本人の意思表示による生活が出来る様に支援している。</p>		
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時間、入眠時間もその方のペースに合わせており、外出、散歩、居室での読書、サークル活動等その人らしく、その人の気持ちに寄り添えるように支援している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>主に訪問美容を利用し、担当職員と話して希望メニューに合わせて支援している。個別に希望があるときは、美容室や買い物へも付き添っている。</p>		
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>生活リハの一環として、その人の能力や、意向に応じ、職員と一緒に楽しみながら準備し、食事もしっかりに行っている。</p>		
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>個人的に嗜好品を好まれる方には、買い物外出時声かけし、好みの品を購入。日常は、好まれそうな品物を準備し支援している。</p>		
58	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を活用し、本人の日々の状態を見ながら定時のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を心がけている。夏場は特に紙パンツから布パンツにパットを併用し支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴出来る様にしている。長年の習慣から遅めが良い人や毎日希望の人、シャワー浴が良い人、長湯の人、一人ひとりに合わせて入浴を支援している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	布団やリネン類は気持ち良く使用出来るように天日干ししたり洗濯を小まめに行っている。一人ひとりの体調、機嫌、状況によって居室での午睡や休息を勧めている。夜間も個人のリズムを大切に安眠への支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	皆さんの役に立ちたいと思われ食事の準備や片付けを職員と一緒にしたり、農家出身で庭の草がいつも気になり、自分用の鎌で草取りをし「きれいになった。ありがとう。」の言葉で生き生きと過ごされている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入浴や外出の機会に必ず「いくらだろうか」と代金を気にされ職員へ札を渡される利用者もあるが、本人の気持ちを考慮しいったん受け取り後に本人の所持金へ返している。外出の機会にはバックとおこずかいを持参し店で選ぶ買う楽しさを味わって頂けるようにしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出入口は日中、施錠せず開放している。建物の外へ出ても直には道路ではなく敷地内なので散歩が自由に出来る。菓子等の希望の買い物がある時は危険ないように近所の店やスーパーへ付き添いしている。本人の自宅へ帰りたいた時も散歩へと誘い安心出来るように出掛けている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	以前住んでいた町や、暮らしていた家、故郷等の思い出を普段の会話で把握し、懐かしく行ってみたいと希望している。又は家族の思いを尋ね、体調を考慮し出掛ける機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がダイヤルを押し、電話できる方はいない。電話希望時に、職員が取次ぎを行っている。季節変わり目や、暑中お見舞い、年賀状のはがきを準備し支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関はいつでも開いており、訪問時間も時間は決まっていないうえ、面会はいつでも出来る様にしている。面会時はゆっくり過ごす事が出来る様に、居室へ案内している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、法人全体の内部研修でも時々研修テーマとし、身体拘束の事例等でよりわかりやすく理解出来る様にし、拘束しないケアを実践している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は出入りが自由に出来る様に、出入り口はオープンにし、利用者が外と居室を安心して行き来出来る様に行っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	帰宅願望時や外出時、職員同士情報交換によって、所在の確認が出来ている。少しでも危険と感じたら、すぐに解決するようにしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具は預かり、本人使用希望時は渡し、使用後は中身の確認をしている。生け花の剣山や、はさみも預かり必要時に渡している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎回違った内容で、1回/3ヶ月緊急避難訓練を行っている。ヒヤリハットや事故報告も、発生日に、原因と再発防止策を検討し、事故の再発防止に努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	1回/月の内部研修、カンファレンスでも時々事故発生時に備え、事例検討にて、手当ての方法等を取り入れて学んでいる。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1回/3ヶ月行う緊急避難訓練は、日頃より地域の方にも声をかけ、協力依頼している。地域消防団の参加協力もあり、利用者、職員も一緒に実施することにより、安全対策を行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族の面会時や、電話時に本人の現況報告等を行い、自由な行動、気ままな生活の中で、不意のリスクについても伝え、家族の意見、意向も聞きながら話し合うことにも努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の体調管理には充分気を付け、毎日の申し送りを確実にし、職員間で情報を共有し、対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を個人別に管理することにより、個人の情報がわかりやすくしている。また薬の1包化により、誤薬がないようにしている。服薬準備チェック表も活用し、薬の変更等も申し送り時に伝え安全確認に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日中、散歩やラジオ体操で、楽しみながら身体を動かし、食事面では乳製品や、好みの飲み物などで、自然排便に取り組んでいる。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	2回/週、歯科医師、衛生士による口腔ケアを行い、毎食後、その方に応じた口腔ケアを行なっている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量は記録し、1日の水分摂取量の少ない方には、個別に飲み物の提供で、はたらきかけを行なっている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	内部研修で、職員全員が感染症に対する学びに努めると共に、感染症対策委員会のシステムもあり、マニュアル化されている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具と台所の衛生管理は、毎日の消毒と週1回の消毒、マニュアルに添った定期的な掃除を行なうと共に		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、ベンチとテーブルがあり、ゆっくりと過ごす事が出来る憩いのスペースになっており、近隣の方も利用することが出来る様にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	Dルームは、ゆったりとした空間になっており、大きな窓の近くに長椅子を置き、外の田畑、花が見え、季節感を感じ朝から夕への1日の流れもわかり、気持ち良く過ごしてもらえる様な空間作りをしている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	明るく外の景色が眺められる場所にベンチや椅子を置き休憩の場所になる様にし、またベッドも利用し足を伸ばすことができ、テーブルや椅子も移動させる工夫もしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が在宅生活時から使い慣れた家具、生活用品、好みの物を持ち込まれ、居心地良い居室作りをしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレ、台所、Dルーム、居室の換気は小まめに行い、エアコンは外気温とコントロールし、心地良い自然の風を取り入れている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは4箇所あり、居室に近い場所でわかりやすくなっているため、利用者は、身体でトイレの場所を覚えることが出来、トイレでの排泄が自立でも可能となっている方が多い。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	Dルーム内は、静かで、時々心地良い音楽を流し、場所が目で見えてわかる表示板も役に立ち、残存機能を生かした支援を行なっている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りは、花壇や畑があり、椅子、バンコを置いている。畑は無理のない姿勢で作業出来る様に、高段栽培になっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・グループホームひかりは同じ敷地内に母体となる軽費老人ホーム船小屋荘があり、恵まれた自然環境の中に位置している。
- ・広大な敷地の中に利用者と職員で管理をしている畑や花壇があり、野菜を収穫する喜びを味わう事が出来る。
- ・地域コミュニティ役割の集会室は、お花、うた、書道クラブがあり、講師も招き、地域の方々、ひかりの利用者で希望者と共に、楽しみと交流目的の場となっている。
- ・その人らしい生活支援を目標にし、介護計画はセンター方式を活用し、ケアマネジメントしている。
- ・利用者の自己実現を支えるため、利用者が行きたい場所の訪問、願っていることの実現を重視した支援を行っている。
- ・生活支援の中で、利用者の残存機能を生かし、その人が願っている生活の継続が可能となる様、職員間で情報共有に努めている。
- ・生活リハビリは、利用者の個性を考慮し実施している。
- ・常に出入り口は開放されており、地域の方々と気軽に交流ができる環境にある。